

必要な資料を収集し、選択、編集する力の育成 VOL2

3年 総合「サトイモパーティーをしよう」

五泉小学校 小野 裕子

1 実践の概要と指導のポイント

前回の報告書では、「追求活動2」までの実践の概要を紹介した。今回の報告書では、その後の実践について紹介する。

<単元の流れ>

<指導のポイント>

問題設定—資料を蓄積していく—収集
(観察カード、ワークシート、写真など)
解決の見通し—活動計画を立てる

追求活動1—必要な事柄の収集

中間発表—選択・分類・編集
プレゼンテーション(保護者・GT・異学年)

追求活動2—必要な事柄の再編集

最終発表—プレゼンテーション(保護者・GT・異学年)

まとめ—必要な事柄を選択・編集し、自分の主張を書く

<発展>

「きぬおとめを売り込もう大作戦」

ポートフォリオの活用

・ポートフォリオ・メモ・ワークシートの活用
・評価活動の位置づけ

ポートフォリオ・メモ・ワークシートの活用

・形式を与えて書く。(国語)
(ポートフォリオ、メモ、ワークシートの活用)
・ふりかえりの作文で書く。
(ポートフォリオ、メモの活用)

(1) 評価活動の位置づけ (最終発表)

中間発表で得られたコメントを整理・分類し、追求活動2を行なった。追求活動2で得られた情報を大洋紙にまとめ最終発表を行なった。中間発表で参加者からもらったコメントをもとに、改善点を考え、修正すべき点を明確にさせた。

中間発表



コメントの整理



追求活動の修正ポイントを書き出す (追求方法も見直し)

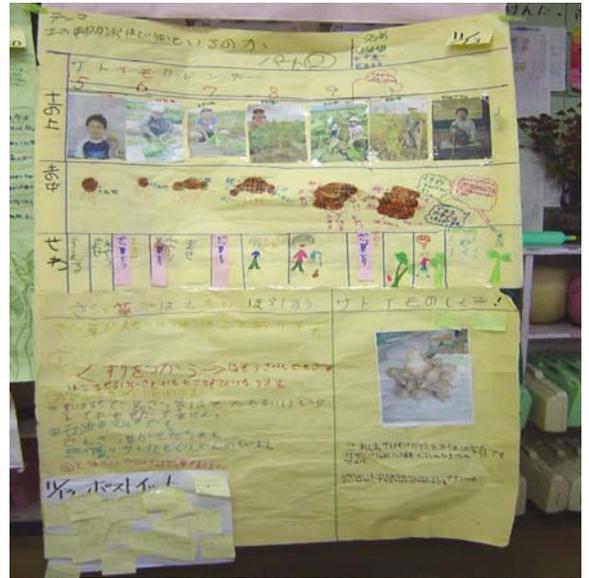


最終発表の評価者は、中間発表と同じメンバーである。最終発表では、改善点がよりはっきりするよう、意図的に中間発表のまとめと最終発表のまとめを並べて掲示した。最終発表後は、中間発表の時より内容が整理されていたことを賞賛するコメントが多く寄せられ、子どもたちにとって大満足の会となった。大洋紙を並べて発表したことで、発表者も評価者もその変容をとらえることができた。

＜中間発表＞



＜最終発表＞



＜参加者からのコメント＞

- ・サトイモの成長の過程がわかりにくい。
- ・親イモ、小イモ、孫イモを聞かれるが、絵で説明するが伝わらない。
- ・雑草をはえなくする方法を聞かれ、答えられない。

＜改善点＞

- ・サトイモカレンダーの作成
- ・写真入りでサトイモの仕組みを説明する。
- ・雑草について電話インタビューをしてまとめる。
(いろいろな種類のマルチについて知る)

(2) 発展的な取組み

①社会科との関連

消費者の目線で学習を進めてきた子どもたちに、生産と消費、流通の仕組みにも目を向けさせたいと考え、社会「店を調べに行こう」という単元の発展として次のような学習活動を組んだ。

- 1 きぬおとめを売り込もう大作戦—きぬおとめのいいところPR
- 2 「もしもスーパー301」を開店させよう—スーパーの設計をしてみよう

この授業は、学習参観日に行なった。まずは、本時まで子どもたちがサトイモ生産者になり、バイヤーに売り込みに行くという設定をし、日本のどこに「五泉のきぬおとめ」をおいてもらうのがいいのか考えた。埼玉・千葉は生産量が多いことサトイモは寒いと育たないことを知っているのので、すぐに北海道に売り込みに行こうと決まった。子どもたちは、サトイモに関する知識を総動員して、PR を考えた。学習参観



の時には、保護者の方を北海道のスーパーの店長さんに見立てて、きぬおとめのPRをした。様々な視点からきぬおとめを宣伝し、北海道のスーパーで売り出してみたいかどうかを保護者から判定してもらった。その後、保護者と相談しながら、スーパー内のレイアウトを考え、きぬおとめが売れるようなスーパーの設計をした。料理のレシピを置く、試食販売をする、サトイモコーナーを作るなど様々なアイデアでスーパー内のレイアウトを考えることができた。

社会科で学んだスーパーの買いやすさの秘密やお店の工夫と自分たち自身が知っているサトイモを売り出すということをうまく関連させることができた。

② 国語との関連

まとめの作文では、国語の「すがたをかえる大豆」と関連させて指導をした。

ア 構想段階での付箋紙の活用

構想段階では、次のような手順で構想を進めた。

- ① 教材文を「はじめ（ピンク）」「なか（青）」「おわり（黄色）」にわけ、色分けする。
- ② ポートフォリオの中から、自分のテーマに関連して大事なことを付箋に書く。「話題、問いかけーはじめ」は、ピンクの付箋に、「内容ー中」は、青い付箋で、「まとめーおわり」は、黄色い付箋に書いた。この時、内容を書いた青い付箋は、枚数を3～4枚とし、1枚に一つのことを書かせた。（小段落として構成させるため）



- ③ ワークシートに付箋を貼り、内容について書いた青い付箋は、書く順序をよく考えながら並べた。

総合の時間に書いたふりかえりの作文と国語の時間に書いたまとめの作文では、内容に違いが見られた。国語の時間に書いたまとめの作文は、事実や結論が明確にされているのに対し、総合で書いた振り返りの作文では情意面が色濃く出ている。振り返りの作文では、自分の学習活動を振り返り、充実した学習活動であったことがわかる記述が多く見られ、意欲的に取り組んできた自分自身をしっかりと見つめながら書いたことがわかる。一方、まとめの作文では、目的に応じた書き方の指導の不足により、主張部分に弱さが見られた。テーマに沿って調べ、調べた事実から自分が言いたい主張は何かという押さえをしっかりとさせてから書かせる必要があった。

(3) 地域とのつながり

指導計画にはなかったことだが、五泉中学校のからのおたよりで「きなせや祭」でつくる「きなせや汁」の野菜が不足していることを知り、わたしたちがつくったきぬおとめを使ってもらうことにした。地域のみなさんからきなせや汁を味わってもらい、その後は「きなせや祭 実行委員長」からお手紙をもらった。

五泉小学校3年生のみなさんへ

きなせや祭のきなせや汁にさといもを寄付して下さってありがとうございました。みなさんがこのさといもを育てているのを写真で知りました。収穫の時、自分の背と同じ位の高さがあるさといもの葉っぱをかり取ったり、たくさんさといもの写真を見て、なえを植えてから水やりなどのお世話をして大事に育ててきたんだな一と思いました。

みなさんが育てたさといもはやわらかくてとてもおいしかったです。みなさんのおかげでおいしいきなせや汁をつくることができ、そしてそれを多くの地域の方々に食べてもらうことができました。本当にありがとうございました。

11月8日 五泉中学校3年 きなせや祭実行委員長

自分たちが育てたさといもが、五泉中学校でふるまわれ、地域の人たちから味わってもらったということを知り、子どもたちはとても喜んだ。このように地域のみなさんから喜ばれる体験は、この学習活動を通じて得られた副産物である。

2 まとめ

学習指導改善調査の結果から、提示された資料をもとに主張にあわせて「資料を活用する力」や「根拠をもとにして記述する力」の育成に向けて取り組んできた。「資料を活用する」「根拠をもとにして記述する」ために必要なツールは、ポートフォリオやメモ、ワークシートなどある。また、「根拠をもとにして記述する」ためには、それらを活用しながら段階的に指導していくこと、中学年では自分の体験を通じた資料活用や編集が有効であることがわかった。実践の後半では、発展的な取り組みとして、国語で「まとめの作文」を総合で「振り返りの作文」を書き、子どもの作文の内容を検証しようとも試みた。国語で書いた作文は、事実や結論が明確に書いている作文が多かった。総合で書いた振り返りの作文では、「総合的にみるとこういうところが満足、こういうことができるようになった、今後こういう力を付けていこう」と自分の学習活動の成果や過程、自分自身の学習活動の様子を評価する記述が多く、前向きな学習習慣の形成につながっていることがわかる。

また、さといもの栽培を通じて地域のみなさんとも交流し、「おいしかったよ。」という地域の方々や保護者からの声、「寄付してくれてありがとう」という中学生の声、これらが自分の学習活動を肯定的に受け止める前向きな気持ちにつながってきたことと思う。

実践の改善すべき点や課題がまだまだあるが、課題の解決をはかりながら今後の授業改善を目指していきたい。

〈資料〉 A子の作文の例 (国語科と関連させた「まとめ」の作文)

きぬおとめのひみつ

私たちの身の回りには、いろいろな野菜があります。野菜の中でもぬめりのある野菜を知っていますか。その中のひとつがサトイモです。サトイモの種類はたくさんあります。たけのこ芋、親子芋、やつ頭、赤芽、セレベスなどです。五泉のきぬおとめは、名前は有名ですが、サトイモの種類の名前ではありません。ブランド名です。種類で言うところと和わせになります。これからその大和わせであるきぬおとめのことについてお知らせしましょう。

最初に大和わせが一番よく育つ場所は、早出川と阿賀野川に挟まれたあたりです。なぜそこがよく育つかというと、昔、川が氾濫して川の土と畑の土が混じったことが始まりです。白っぽい川の土が混ざったことで、さらさらした水はけのよい土になりました。さつまいもを育てるのに使う黒ぼく土とはちがい、砂じょう土と呼ばれる菓本の土は、サトイモを育てるのに合った土になったのです。

次に、どうしてきぬおとめが白いかということ。きぬおとめの白さの秘密は、土に関係があります。砂じょう土は、とても水のとおりがよいので土と水が混じって泥水になってしまった水をこしてきれいな透き通った水に戻してくれるのです。そのため、土の中でできているサトイモの中に水が通ったときに灰色や茶色にならないのです。

最後に、さといものぬめりです。ぬめりの正体は、ムチンという成分です。ムチンは、芋に多く含まれていてでんぷんのまわりに小さな糖分がくっついてできたものです。私たちの身の回りにもムチンをたくさん含んだ食べ物があります。みなさんも探してみてください。

サトイモがおいしく育つには、水や土が関係あることがわかりましたか。五泉のサトイモのきぬおとめをぜひ食べてみてください。

A子の作文の例 (総合 振り返りの作文)

「サトイモパーティーをしよう」をふりかえって

4月のはじめに先生に

「サトイモはどんなものからできる?」

ときかれました。今は、もう答えはタネイモだとわかっているけどはじめは、種だと思いました。カードにもそう書いてありました。そのタネイモを観察したとき、私が、

「ねっこがもしみたい。」

とって、班のみんなも

「本当だ。根っこがもしみたい。」

とっていました。そしてその観察が終わってから、成長を予想したり、タネイモを植えたりしました。タネイモの観察では、6月のはじめは13センチだったのに段々日がつれて大きくなって、収穫した日は、高さ150センチでした。とっても大きくなってうれしいです。まだ覚えています。自分でサトイモ育てたんだなーと。スーパード見たら、思ったより安く売っていて残念でした。大きく育てるために苦労したのに。私のサトイモは、家族でのっぺにして食べました。みんながとてもおいしいとってくれてうれしかったです。

私が、いずみタイムでがんばったことは4つあります。一つ目は、表現です。保存庫の絵やサトイモをどういう風に育てるかなどのことを絵や文でうまく表現することができました。今までは、あまりうまく表現することができなかったけど、いずみタイムで「見たこと、思ったこと、観察したこと」などを書いていくうちにどう書けばみんなに様子が伝わるかどうかをよく考えながら書けるようになりました。そして、ポートフォリオを見てくれた人も

「○○さんの絵、わかりやすくなったね。」

とってくれました。

二つ目は、「追求」です。自分が疑問に思ったことをメモに書いて、図書室や五泉図書館でのっていいような本や資料、参考にしたりそんなものを借りてきて、フリーシートにまとめて、そこからまた疑問を見つけました。そこでは、ハテナを見つけることとして問題を見つけることもできました。本のほかにもお父さんからパソコンを貸してもらって、必要がありそうな文や他のグループに必要なと思うところを写して、教えてあげたりもしました。

三つ目は、自分がわかったことをすぐにフリーシートに書くことです。自分がわかったことをすぐまとめて、そこからつながらることを考えてわからないことがあると本や図鑑で調べたり、サトイモ農家のくさんに聞いたりしました。その時には、わかりやすく書き直したりもしました。そのおかげで、育て方で必要なものを覚えていられなくてもフリーシートを見るとすぐに思い出させてくれるのでフリーシートにわかりやすく書いておくことは大切だなと思いました。

四つ目は、ふりかえりです。1がつきのふりかえりや中間発表のふりかえりでよかったところやもう少しのところを見つけていく力がついたことです。ポートフォリオからそのしょうこのページをさがすのが少しむずかしかったけど。

3年生から始まったいずみタイムが大好きです。友だちといっしょに調べたり、話し合ったりして書いたりまとめたりのがとても楽しいからです。4年生になってもいずみタイムでがんばっていききたいです。